



内部地区の

豊かな水辺環境を守るために!! ～ 内部川清掃・アレチウリ駆除で、河川や海の生態系を守ろう ～



2026年6月28日

内部地区社会福祉協議会 保黒時男

1. 内部地区の2大環境活動とは

①内部川清掃 -人間が出したゴミで海を汚さない-

子ども環境ボランティア団体「うつべ緑の少年隊」が、「学校への通学路沿いの内部川にゴミが多いので掃除をしよう」と、1982年に清掃を実施。その後、1984年より内部地区社協による清掃活動が開始された。

②アレチウリ駆除 -自然ゴミで海を汚さない-

内部川ではアレチウリ(外来植物)の繁茂により河川敷のカワヤナギやヨシが大量に枯死をし、自然ゴミが海へ流れる。このため、海の水質悪化防止と河川の在来生物保護のため2007年より内部地区社協による駆除活動が開始された。

両活動は、2022年7月に「みえ環境活動賞」を受賞

2. アレチウリとはどんな植物なのか

ウリ科の大型つる性1年生草本。茎は数mから十数mに伸び、他の植物に絡まる。北米が原産地。外来生物法(2005年制定)の特定外来植物に指定の侵略的雑草。北海道～九州に分布する。

① 驚異的な繁殖

- ・初夏に発芽し、秋に枯死する短期旺盛型の植物
- ・実に鋭いトゲが密集する
- ・一株400～500個の種子がつき7～8割が発芽する

② 自然の生態系に悪影響

- ・蔓で登ったり、広がったり、這って覆いつくす
- ・他の植物に絡みつき丈夫な茎をもたず、成長が早い
- ・河川環境の生き物の「命の繋がり」を壊す

これにより、枯死が増大したら「川から海へと自然ゴミ」が流れ、海を汚染し生態系に悪影響をおよぼす。



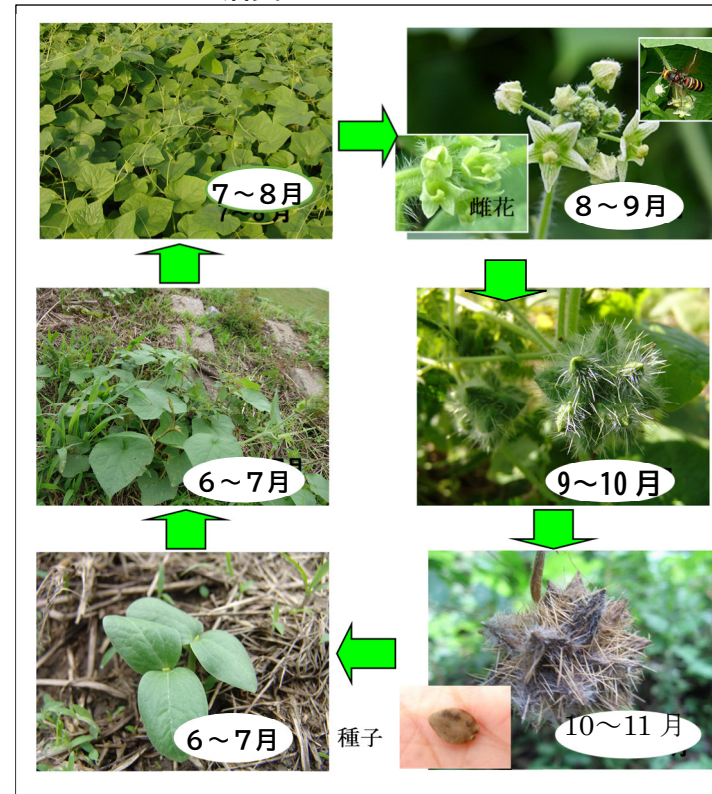
河川敷や河川樹木を被うアレチウリ



内部川

内部地区の中央を東西に流れる清らかな内部川は、古くは万葉の昔に詩にも詠まれ、今日でもその流域および周辺の豊かな自然は「先人たちより、守り、守られ大切に受け継がれてきました」。これは内部地区の「宝物」であり「大切な自然遺産」でもあります。今後も内部川の豊かな自然を「未来の子供たちへ繋いでいくこと」は、今を生きる私たちの責務です。

アレチウリの生活史



5. 外来植物の進入による影響・種類は

①外来植物はどのようにして進入するのか

人間による故意の持ち込み、不意の持ち込み、自然伝播、遺伝子交雑、これらによる4つの進入経路がある。

②これらはどのような影響をおよぼすのか

農業・林業に影響を与え、また、自然界の生態系を破壊するだけではなく河川・海洋の環境汚染を引き起こす。三重県の海岸漂着ゴミ8～9割が灌木・流木(R2～6年)

③主な外来植物

今日、私たちの周りには外来植物で満ち溢れている。

ヘラオオバコ・セイヨウタンポポ・ヒメジョーン・ハルジョーン・ブタクサ・メリケンカルカヤ・コバンソウ・セイタカアワダチソウ・オオキンケイギク・アレチハナガサ・アメリカセンダングサ・アレチウリなど多種が見られる。※太字は特定外来植物<外来生物法の規制対象・罰則あり>(2020年時点19種類)



オオキンケイギク

6. 内部地区での在来植物の状況はどうか

①内部川河川敷の在来植物

オオバコ・カワラヨモギ・ノアザミ・ミゾソバ・カラナデシコ・オミナエシ・ネナシカズラ・イタドリ<草本>、カワヤナギ・イヌコリヤナギ・ネムノキ・ヤマザクラ・<木本>などが自生。太字は日本固有種



カワヤナギ

②希少・貴重植物

クサソテツ・コウヤワラビ・タシロラン(三重県絶滅危惧Ⅱ類:内部では絶滅寸前)が僅かに生育する。

③河畔植物の代表種と生物多様性

- ・ヤナギ類(カワヤナギ):流れの速い場所に生育できるヤナギの仲間。特に樹液や葉食を求めて昆虫のクワガタやカナブン、蛾・蝶の幼虫が寄り添う樹木。
- ・ヨシ:1年で地下茎が5m位延び、ヨシ原をつくる。根元には泥が溜りやすく汚水物の分解が多く行われ、自然の浄化作用のある重要な植物で、川の水を綺麗にしてくれる。ヨシが生える淵の水辺はメダカやフナ・コイなど魚類育む大切な場所である。

7. 特定外来植物の駆除・処理方法

- ・草刈り後の幼草期に根を残さないで抜き取る。
- ・抜いたものは袋に入れて焼却処分をする。

8. アレチウリ駆除の推移



9. 今後の課題

- ・内部川流域の他地区との連携による全域駆除